

# 助けてほしいと泣き叫ぶ

ユース・ガーディアンでウェブアンケートをした結果、わが子がいじめを受けたもしくは受けているのではないかと思っ

たとき、保護者のおよそ8割が学級担任に相談すると回答している。しかし、私が1人で対応する相談案件は、常時50人を超えている。

今年5月頃に電話をくれた男子生徒は、当初の電話ではおどおどしていたが、私が「先生には相談したのか?」と問うと、「相談したけど、嫌だと言え

ない」と吐き捨てた。「嫌」とはもう言っている、それでもダメだから相談しているのに、分かってくれないから...。もう

自分を受け持つ児童や生徒の交友関係、家庭の事情、得手不得手、性格的な特徴、いま流行っているもの...。先生方に必要

なのはテクニクではなく、観察力と向き合う姿勢なのではないか。子どもの話を聞いて、手

私に寄せられる相談は、一件一件が深刻で長い時間を要するものである。食事もトイレも行く時間もなくなる。本業に取り組む時間と合わせると、残業時間は月に優に200時間を超えている計算になる。

外部の関係者に相談するなり、常設されているはずの対策委員会で動いた方がよい。

彼は話を聞いてほしいのではない、助けてほしい、それが難しいなら、有効なアドバイスがほしいのだ。会ってみると、彼の手首にはいくつものためらい傷があった。

私のところに、これだけ多くの相談が寄せられるというのは、それだけ学級担任がいじめの芽を取りこぼしているからではないだろうか。事が起きると、学校現場の忙しさを言い訳にする学校が多い。先生方が忙しいのは理解しているつもりであるが、われわれの立場からすると、

学級担任に相談をしたという多くの子どもたちは、必ずと言っていいほど、担任から「嫌だと言えばいい」と指導されている。彼らは黙って聞いているのかもしれないが、心の中では「そんなのもう言ったよ」と思っている。実際、先生に相談する前に「嫌だ」と言っている子どもは多い。

私は常々言っているが、子どもは多くはいじめの被害を隠す、できる限りの知恵を使って隠そうとする。そういう子が、誰かにいじめの被害を告白するのだ。それは、話を聞いてほしいだけではないはずだ。「助けてほしい」。そういう心の叫びが、相談の一つ一つに含まれている。それは最後のヘルプになるかもしれない。学級担任は、その最前線にいる。

## 第6回



探偵がみた

学校といじめ

NPO法人ユース・  
ガーディアン代表理事

阿部 泰尚

もちろん、自己主張が弱い子どもだとしても、「嫌だ」として力や養わなければならないという側面はよく理解できるが、暴力の世界では、それは通用しない。さらなる報復の可能性などがあるからである。「嫌だと言いなさい」と切り捨ててしまっ

つては、被害を受けている側には、この担任に相談しても分かってもらえないと落胆するだけだ。  
今年5月頃に電話をくれた男子生徒は、当初の電話ではおどおどしていたが、私が「先生には相談したのか?」と問うと、「相談したけど、嫌だと言えない」と吐き捨てた。「嫌」とはもう言っている、それでもダメだから相談しているのに、分かってくれないから...。もう彼は話を聞いてほしいのではない、助けてほしい、それが難しいなら、有効なアドバイスがほしいのだ。会ってみると、彼の手首にはいくつものためらい傷があった。  
私は常々言っているが、子どもは多くはいじめの被害を隠す、できる限りの知恵を使って隠そうとする。そういう子が、誰かにいじめの被害を告白するのだ。それは、話を聞いてほしいだけではないはずだ。「助けてほしい」。そういう心の叫びが、相談の一つ一つに含まれている。それは最後のヘルプになるかもしれない。学級担任は、その最前線にいる。  
▽NPO法人ユース・ガーディアン 探偵業のノウハウを生かし、客観的ないじめの実態を調査、レポートを作成するなどして数多くのいじめ問題の解決に寄与している。URL 〓 <http://jijime-sos.com/>